

日吉キャンパスの教職員がおすすめする各種イベントのお知らせを掲載した
ニュースレターです。お気軽に手に取ってご覧ください。

HIYOSHI CAMPUS CALENDAR

JULY AUGUST SEPTEMBER 2012

2012. 7. 1. 発行 第148号

慶應義塾大学(日吉) HIYOSHI CAMPUS CALENDAR 編集部(日吉キャンパス事務センター運営サービス内) 編集・発行

慶應義塾外国語学校 日吉特別講座 2012年度秋学期受講生募集

日吉では、英語・ドイツ語・フランス語の3言語を開講します。語学学習に興味がある方はどなたでもお申し込みください。

詳細は7月中旬以降にホームページをご確認ください。

< http://www.flshy.keio.ac.jp/hiyoshi/h_index.htm >

受付 : 2012年8月30日(木)正午~9月14日(金)午後4時(オンライン登録)

開催日時 : 2012年10月1日(月)~2013年1月28日(月)【全13回または26回】

場所 : 日吉キャンパス第3校舎

問合せ : 慶應義塾外国語学校 [Tel]045-566-1030 [e-mail]flshy@info.keio.ac.jp

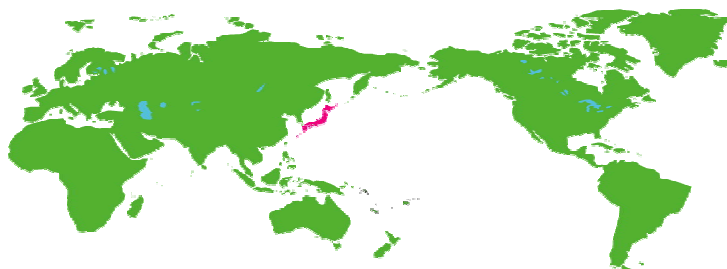
三田キャンパスでは12言語を開講します。< <http://www.flshy.keio.ac.jp/> >

【2013年度慶應義塾大学派遣交換留学生(第1期募集)】

出願期間 : 2012年10月1日(月)~10月4日(木)

詳細については、「2013年度留学のてびき・派遣交換留学募集要項」、または国際センターホームページ< www.ic.keio.ac.jp/keio_student/index.html >で確認してください。

「2013年度留学のてびき・派遣交換留学募集要項」は各キャンパス学生部国際担当およびSFC事務室で配布しています。



【3・11以降の芸術 3・11以降の学問】

震災から一年を経て、復興にむけた様々な動きが進行しています。文化財に関しても文化財レスキュー事業を中心に活動が展開していますが、生活再建もままならない中、文化への支援や復興の計画は困難な状況が続いています。このような点については、具体的な事例報告や関連の催事がこの3月にも幾つか開催され、現状報告・ディスカッションがなされました。

しかし、昨年3月11日の震災は、日本において文化的なパラダイムの変換までも迫る大きな出来事でした。この震災そしてその後引き続いた原子力発電所事故を経験した我々は、それ以前とは違った形で、この世界を見つめ、文化や生活について考えることを求められています。

この度のシンポジウムでは、具体的な支援や復興の事例報告、現状の共有ということではなく、むしろ、現在、我々の置かれている現状認識を先鋭化し、その中で生活・文化、芸術の問題を改めて問い直し、この未曾有の震災という契機をどのように着地させ、未来へと拓いていくのかを議論し、考えていこうというものです。

学問、芸術、あるいは大学という学問の場が、この現況を踏まえた新たな一步に、いかに寄与できるのか。明日の社会を担う人材を育む使命をもつ大学であればこそ、このような問題を問いかけ、検討していきたいと考えています。

開催日時： 2012年7月14日(土)13:30~17:00

場所： 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール

問合せ： アート・センター TEL: 03-5427-1621 FAX:03-5427-1620

E-mail: ac-311@adst.keio.ac.jp



【同時代の眼 此処から ブラウンとビュレン】

現代美術の作品には同時代を生きるアーティストたちが、今をどう生き、世界をどう捉えているか、ということが現れています。「同時代の眼」シリーズでは現代作家が提示する世界観や表現を紹介します。

第2回展では、スタンリー・ブラウン(b.1935)とダニエル・ビュレン(b.1938)の作品を展示します。今回の案内状には、残念ながら作品写真を掲載できません。それはこの二人の作品の在り方と深く関わっています。

ブラウンは作品を写真で図版化することを許しません。「単位」と「距離」について考察し、問い直すブラウンの基本には実測があり、図版化されてリアルでなくなってしまう「長さ」を許可する訳にはいかないのです。ブラウンが1メートルや1フィートなど、日常的な測定「単位」と「距離」について考察し、問い直す姿勢は、我々に日常的な事象に対する再考と再発見をもたらします。一方、ビュレンは8.7センチメートルのストライプというツールを用いて、様々な社会的な仕組みや構造をあらわにします。ビュレンが自分の作品を総じて「場における作品」と呼ぶように「現場」にすることが重要なのです。ビュレンはこう言います-「私の作品についての可能な唯一の情報はそれを実際に見ることである。」

写真には出来ない作品、写真にすることを許されない作品-展覧会場でそれを目撃してください。作品は観者と出会うところに現出するのですから。

全ては、此処から-

開催日時： 2012年6月25日(月)~7月27日(金)

場所： 慶應義塾大学アート・スペース(三田キャンパス 南別館1階)

問合せ： アート・センター TEL: 03-5427-1621 FAX:03-5427-1620

E-mail: ac-tenji@adst.keio.ac.jp

【日吉メディアセンター】

日吉図書館Webのスマートフォン版が登場！
スマートフォンから、日吉図書館の開館時間やニュース、新着図書情報がチェックできるほか、
図書の検索、各種リクエストの申込みも可能です。

アクセスURL <http://www.hc.lib.keio.ac.jp/sp/>

夏季長期貸出

夏季休業期間にともなう長期貸出を次のとおり行います。

通常30日間貸出図書の長期貸出実施期間：7月6日(金)～8月31日(金)

通常14日間貸出図書の長期貸出実施期間：7月20日(金)～9月14日(金)

返却期限(上記いずれも)：10月1日(月)

休日臨時開館

開館日：7月15日(日)、7月16日(祝)、7月22日(日)、8月5日(日)、8月12日(日)

開館時間：10:00～18:00

受付カウンターで貸出・返却等のサービスを行います。

AVコーナーおよび4階の利用はできません。レファレンスデスクは休止します。

夏季休業期間中<8月2日(木)～9月21日(金)>の開館日程

日吉図書館Webページで開館カレンダーを公開しています。

他キャンパスメディアセンターについても、それぞれのWebページをご覧ください。

開館時間：平日 8:45～18:00 (土～16:00)

但し、下記のスクーリング期間中は開館時間を延長します。

8月4日(土)～8月9日(木)、8月11日(土)～8月16日(木)：平日 8:45～20:00 (土～18:00)

休館日：休日臨時開館日(8月5日、8月12日)を除く日曜日・祝日

8月23日(木)～29日(水)

9月15日(土)

読書のすゝめ！「体育研究所の本棚。～心と身体の鍛え方～」

第8回目となる教員のオススメ本は、

「心と身体を鍛える」「夏休みに読んでほしい本」をテーマに、体育研究所の先生方の推薦図書を展示します。

今回は次の先生にご協力いただいています。

体育研究所：村山光義先生、野口和行先生、奥山静代先生、永田直也先生

場所：日吉図書館1階ラウンジ

期間：7月10日(火)～10月24日(水)

(予告!) 塾生選書ツアー

8月2日(木)に、紀伊國屋書店 横浜店 (横浜そごう7階) にて、塾生選書ツアーを行います。

皆さん自身が書店に行き、日吉図書館に置きたい本を直接選べる貴重な機会です。

募集の詳細は、日吉図書館内掲示、Webページでお知らせします。

是非、ご応募ください!!

【2012年度 学生論文コンテスト】

教養研究センターは、設立10年を記念して、学部1・2年生を対象に「学生論文コンテスト」を開催いたします。コンテストの概要は以下となります。

- 応募資格：** 慶應義塾大学 学部在籍中の1年生・2年生
テーマ： 「変/不変」
A 「社会」部門： 社会事象を対象とした「問い」を設定し、論じてください。
B 「文化」部門： 広義の文化事象を対象とした「問い」を設定し、論じてください。
(歴史・芸術・思想・言語などを含みます)
字数： 8000字程度 (日本語)
賞： 最優秀賞【部門別】 各1名(賞状 および 賞金 20万円)
優秀賞 若干名(賞状 および 賞金 5万円)
応募方法： 事前登録の受付期間：2012年 7月10日(火)～8月10日(金)
応募する場合は事前登録が必要。期日内に教養研究センターのホームページから。
論文提出の受付期間：2012年 11月1日(木)～11月30日(金) 必着
発表： 2013年1月中旬を予定。
問合せ： 教養研究センター 学生論文コンテスト担当
e-mail : toiwase-lib@adst.keio.ac.jp
URL : <http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

【第1回 論文の書き方セミナー】

「学生論文コンテスト」の連動企画として、「第1回 論文の書き方セミナー」を開催いたします。

- 開催日時：** 7月5日(木) 6時限(18:10～19:40)
開催場所： D203教室
題目： 90分でコツがわかる論文・レポートの書き方
講師： 泉 忠司(青山学院大学講師)
『論文&レポートの書き方』(青春出版社)の著者
補講： 7月6日(金) 2時限・5時限、7月11日(水) 2時限・5時限、来往舎シンポジウム
スペースにて、出席できない人のためにビデオ補講を行います。
問合せ： 教養研究センター
e-mail : toiwase-lib@adst.keio.ac.jp
URL : <http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

第19回 【イルカや魚を声で見つける】

- 講演者：** 赤松友成氏(独立行政法人水産総合研究センター水産工学研究所
水産業システム研究センター エネルギー・生物機能利用技術グループ長)
日時： 10月2日(火) 16:30～18:00
場所： 日吉キャンパス 来往舎1階シンポジウムスペース
参加費： 無料(学生の来場歓迎)
問合せ： 自然科学研究教育センター事務局(日吉キャンパス来往舎内)
URL: <http://www.sci.keio.ac.jp>
Email: office@sci.keio.ac.jp
Tel: 045-566-1111(直通)